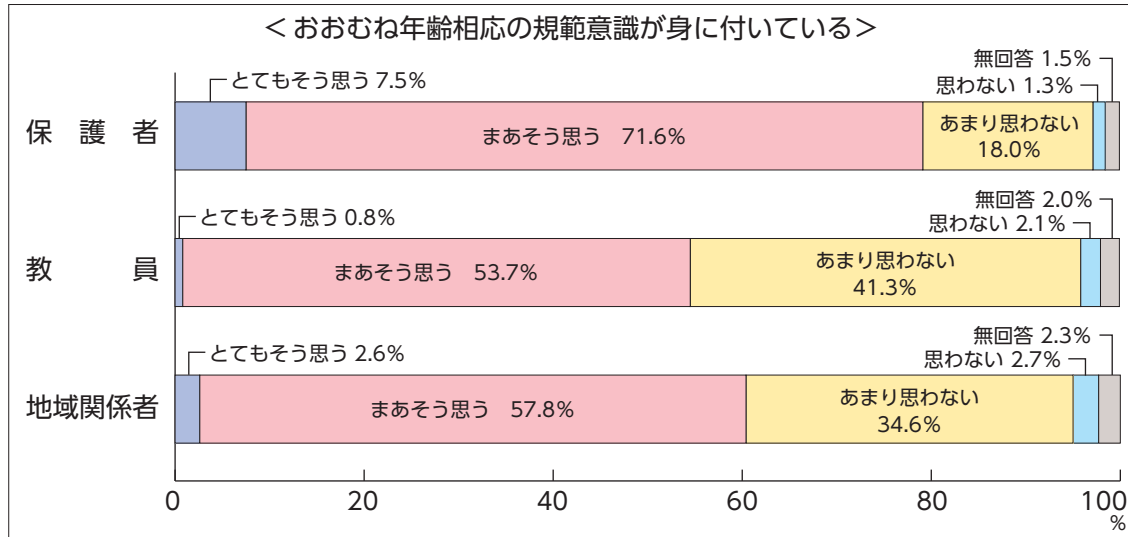


(2) 幼児の「規範意識」に関する大人の意識

平成21年に全国国公立幼稚園長会が行った調査において、「幼児におおむね年齢相応の規範意識が身に付いている」の項目について、「とてもそう思う」「まあそう思う」と回答した保護者は、79.1%、教員は54.5%、地域関係者は60.4%という結果でした。幼児の規範意識について、保護者と教員や地域関係者との間に意識の差があることが分かります。

幼児の規範意識を培うためには、家庭と連携を図り、幼児にとって必要なことを共に考えながら、幼児の経験を積み重ねていく必要があります。



「子どもの心によりそい、規範意識の芽生えを培うプログラムに関する調査研究報告書」
(平成22年3月 全国国公立幼稚園長会) から

2 本指導資料における「規範意識」の考え方

(1) 「規範意識」「規範意識の芽生え」の捉え

本指導資料においては、「規範意識」及び「規範意識の芽生え」を次のように捉えています。

規範意識とは

法令などの社会のルールの大切さを理解し、それらを守ろうとする意識

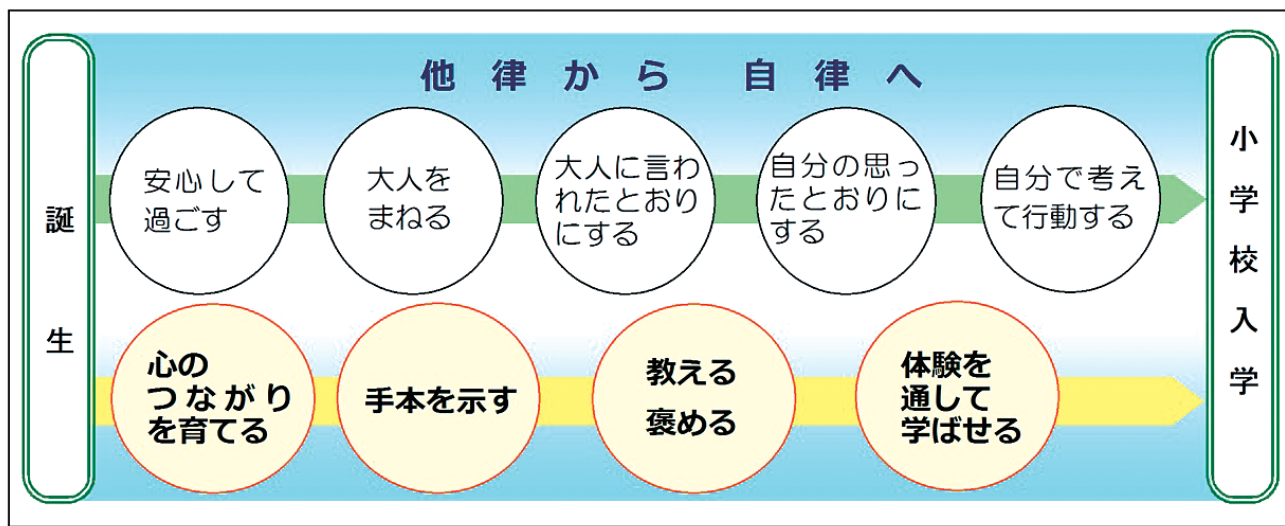
規範意識の芽生えとは

幼児が、人や物など周囲の環境と関わる中で、互いに気持ちよく過ごすために、感じ、考えて自分の気持ちや行動を調整（コントロール）しようとする心の働き

(2) 「規範意識の芽生え」の発達

幼児期は、他律から自律へと向かう時期です。始めは、大人の言うことが正しく、大人に言われたから、叱られるから従うという傾向があります。幼児は家庭や就学前教育施設での様々な経験を通して、徐々に自分で考えて行動するようになっていきます。大人は幼児の「規範意識の芽生え」の発達の状況を的確に捉えて関わるのが大切です。

《「規範意識の芽生え」の発達と大人の関わり》



- * 上段が幼児の発達、下段が大人の関わりを示しています。
- * 発達には個人差があること、場面や状況によって行きつ戻りつしながら発達することに留意します。
- * 発達に応じて幼児に気付かせていくことと同時に、大きな事故につながる危険な行為や、人を傷付ける言葉や行動などについては、毅然とした態度で接し、教えるのが大切です。

3 「規範意識の芽生え」を培う視点について

(1) 「規範意識の芽生え」を培う視点の整理

保育所保育指針、幼稚園教育要領に示されているように、幼児期の規範意識の芽生えは、保育者や友達等との関わりの中で培われます。そのため、本指導資料の「指導計画」は、就学前教育カリキュラム（平成23年3月）の内容を踏まえながら、「生きる力の基礎」の要素の一つである「人とかかわり」を中心にして作成しました。

更に、これまでの都教育委員会における研究等を参考にするとともに、現在の幼児の様子や保育の状況などを考え合わせて、規範意識の芽生えを培う視点を「関わり・自立・規範」に整理しました。